

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ●京丹波

京丹波

No.49

2009年
11月13日発行



待望の
下山バイパスが
開通

祝 国道27号 下山バイパス開通



特集 人権を守るために



丹波ひかり小学校



明俊小学校



今月の表紙

10月24日、長年待ち望んできた「国道27号下山バイパス」が開通。開通を記念して行われた式典やパレードには、多くの地域住民が参加し、新たな道路の完成を盛大に祝いました。(関連記事を7ページに掲載)

京丹波 No.49 CONTENTS

2 **特集** 人権を守るために

6 平成23年4月1日開校を目指して「瑞穂地区統合小学校準備委員会」が検討をスタート

7 国道27号下山バイパスが開通しました

8 高齢者のスポーツの祭典 シルバーオリンピック

10 新型インフルエンザに備えて

11 Dr's Message いきいき健康術

12 **フラッシュ** TOWN NEWS 2009
 戦没者の冥福を祈って
 ー京丹波町戦没者追悼式
 町民のみなさんの健康を守るために
 ー「京丹波町介護療養型老人保健施設」開所式
 交通事故のないまちを実現するために
 ー南丹船井交通安全大会
 竹野小学校のホームページが2年連続で京都府代表校に
 ーJ-KIDS大賞2009
 百歳の記念を祝して
 ー敬老祝賀訪問
 繰り広げられる熱戦
 ースポーツ少年団軟式野球大会
 交通安全の意識を高めるために
 ー交通安全啓発ポスターコンクール表彰式
 地域特産「丹波くり」の振興を目指して
 ー京都丹波くりまつり
 山野草と親しむ機会を
 ー秋の森祭り
 スポーツを通じて深まる交流
 ー京丹波町民スポーツフェスティバル
 バレーボールで深まる交流
 ー和知地区親善バレーボール大会
 手刈りの収穫作業を体験
 ー「あっぱれたんぼ」稲刈りイベント

16 **シリーズ** 地元で採れる旬の食材を使った料理レシピ

特集

人権を守るために

すべての人々に保障されている「人権」。近年、インターネットの普及などにより社会構造が変化する中、さまざまな人権問題が起こっています。今回は、みなさんの人権を守る「人権擁護委員」の活動について特集します。

多様化する人権問題

みなさんは「人権とは何か」を考えたことはありませんか。人権とは、人から与えられるものではなく、人が生まれながらにして持つ幸せな人生を過ごすために欠かすことのできない権利であり、誰にも侵すことができないもので

地域に根差した活動を行う「人権擁護委員」

権について理解を深める取り組みが重要であり、人権擁護委員はわたしたちの身近でさまざまな活動を展開されています。

人権擁護委員の役割と活動内容

同委員は、「人権擁護委員法」に基づき、すべての人々に保障されている基本的人権を擁護し、自由な人権思想の普及や高揚を図ることを目的に設置され、地域の中で人権思想を広めるとともに、人権問題が起きないように日ごろから見守り活動などを行っています。地域に根ざした活動を行う同委員

は、町が議会の同意を得た上で法務大臣に推薦し、推薦した者の中から法務大臣が三年の任期で委嘱。現在は、全国で約一万四千人、町内で十一人が委員として活動されています。

同委員は、左記の職務内容に基づき、人権相談（「広報お知らせ版」掲載）をはじめ、人権教育や啓発活動などを積極的に実施。また、活動の強化を図るために、「人権擁護委員の日」などを定め、特設相談所の開設や電話相談、街頭啓発などを行っています。（表1参照）

なお、プライバシー保護の観点から、同委員には守秘義務が課せられていますので、安心して相談することができます。

ほかにも、子どもたちが人権の大切さを学ぶ機会として、人権の花運動や人権教室が行われており、本町では毎年、町内の小学校などで活動が展開されています。

【委員としての職務】

- 自由な人権思想に関する啓もうや宣伝を行う。
- 民間における人権擁護運動の助長に努める。
- 人権侵犯事件の救済のために調査や情報収集を行い、法務大臣への報告および関係機関への勧告など、適切な処置を行う。
- 貧困者に対する訴訟援助と人権擁護に適切な救済方法を講じる。
- その他人権の擁護に努める。

全国および府内全域で展開されている運動(表1)

名称	期間
人権擁護委員の日	6月1日
男女共同参画週間	6月23日～29日
子どもの人権110番強化週間	6月28日～7月4日
人権強調月間	8月
高齢者・障害者の人権あんしん相談強化週間	9月6日～12日
女性人権ホットライン強化週間	11月15日～21日
人権週間	12月4日～10日



あゆみちゃんと触れ合う児童(丹波ひかり小)



児童らに人権の大切さを語りかける原澤さん(丹波ひかり小)



球根の植え方を教わりながら植え付けをする児童(丹波ひかり小)



児童らに絵本の読み聞かせをする西田さん(明俊小)



江畑支局長から看板を受け取る塩田さん。「今日いただいたスイセンを大切に育てていきます」と話しました(明俊小)

思いやりの心を育てる

「人権の花」運動

いじめや虐待など、子どもに対する人権侵害が多発し、社会問題となっている中、子どもたちが仲間と協力してスイセンの花を育てることで、助け合いや感謝することの大切さを学ぶとともに、やさしさと思いやりの心をはぐくむことを目的に毎年実施している「人権の花」運動。同運動は、昭和五十七年度から京都府人権擁護委員連合会が府内の小学校や幼稚園、保育園を対象に実施しており、本町では今年度、明俊小学校と丹波ひかり小学校で取り組みが行われました。

子どもたちの人権意識をはぐくむために

人権の花運動が、十月十九日に明俊小学校、二十日に丹波ひかり小学校で行われました。

明俊小学校では、一・二・三年生の児童二十五人が参加。生徒代表の塩田大智さんが京都府方法務局園部支局・江畑支局長から「人権の花」運動と記された看板などを受け取った後、人権イメージキャラクター「人KENあゆみちゃん」が登場し、児童

らは、あゆみちゃんに見守られながら、植木鉢に球根を植え付けていきました。植え付けが終わると、人権擁護委員の西田光子さん(下大久保と谷碩子さん(質美)が、「にじいろのさかな」しましまをたすける」の絵本を使って人権教室を行い、「見た目が違うだけで差別をするのではなく、お互いが助け合って生きていくことが大切です」と児童らに語りかけました。

一方、丹波ひかり小学校では、五年生の児童五十四人が参加。看板と球根、植木鉢などの贈呈式が行われた後、児童らは植木鉢に球根を植え付けていきました。植え付けが終わると、人権擁護委員の原澤淑子さん(高岡)が、人権啓発冊子「種をまこう」を使って人権教室を実施。原澤さんは、「学校でいじめはありませんか」と児童らに問いかけた後、「人権は誰もが幸せに生きられる権利です。学校でいじめられた人は、楽しい学校生活を送れず人権を傷つけてられています。いじめをしないで、みなさんが楽しい学校生活を送れるように心がけてください」と話されました。また、人権教室終了後には、人KENあゆみちゃんが登場し、児童らとの記念撮影を行いました。

伝えたいのは相手のことを思いやる気持ち



園部人権擁護委員協議会 会長 岡本 均 さん

次代を担う子どもたちが情操豊かな人に成長するための一助として、人権の花運動や人権教室を実施しています。昨年度は、府内七十三の小学校などで人権の花運動を実施しました。球根をいねいに植えることで、「思いやりの心」がスイセンと一緒に育つよう願っています。

今回、明俊小と丹波ひかり小の児童に接しましたが、すべての子どもが孫のようにいとおしく思え、明治時代のある文学者の言葉「友の憂いに我は泣き、我が喜びに友は舞う」のような人間関係が築けることを期待しています。

咲かせてほしいのは

子どもたちの中にある「思いやりの心」



京都府方法務局 園部支局 支局長 江畑 康夫 さん

スイセンは京都府の人権の花であり、花言葉は「思いやり」です。児童らが協力して、やさしくスイセンを守り育てることで、身近な家族やともだちを大切にすることができ、思いやりの心、思いやりの心が育ち、思いやりの心、思いやりの心の中に相手への思いやりの心、すなわち本当の意味での「人権の花」を咲かせてもらいたいと思います。

人権の花の日である三月一日には、きれいなスイセンが花開くとともに、みなさんの人権に対する意識が高まることに期待しています。

12月4日～10日は「人権週間」です

人権の定義は、人それぞれの考え方によって違いがあります。そのため、「自分は気にならないから」「このぐらいなら大丈夫」などの思い込みから人権問題が起ることがあり、知らないうちに誰かを傷つけることがあります。人権問題を考えるときに大切なのは、「相手の立場に立つて考える」ことであり、自分だけでなく周りの人々すべてが楽しく過ごせるように心がけることです。

みなさん、十二月四日～十日は「人権週間」です。誰もが楽しく暮らせる社会を目指して、今一度、人権について考える機会にしてください。



手作りの魚の絵を使って人権教室を行う谷さん(明俊小)

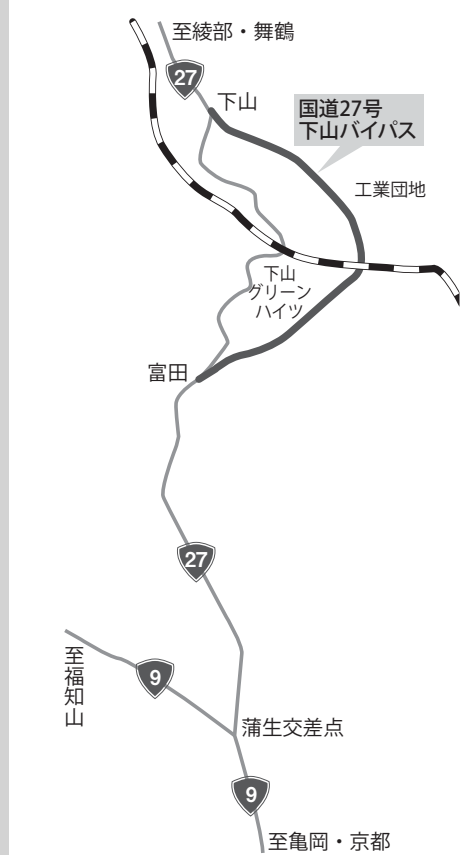


あゆみちゃんに見守られながら、球根を植え付ける児童(明俊小)



国道27号下山バイパスが開通しました

①テープカットをする関係者（下山バイパス・富田市内）
②車でパレードを行う関係者（下山バイパス・富田市内）



開通式典で式辞を述べる松原町長
(町中央公民館・蒲生)



「下山バイパス」と題した作文を読み上げる手島さん
(町中央公民館・蒲生)

国道二七号下山バイパスの開通を祝う「開通式典」が十月二十四日、町中央公民館で行われ、地元住民ら約六十人が出席しました。式典では、オープニングセレモニーとして、蒲生野中学校の吹奏楽部が「マトリックス・マーチ」など三曲を演奏。続いて、松原町長の式辞、京都府・麻生純副知事ら来賓からの祝辞が述べられた後、記念行事として下山小学校六年生の手島可葉さんが「下山バイパス」と題した作文を披露。手島さんは、生まれてから下山バイパスが完成するまでの思い出を話すとともに、「みなさん速度の出し過ぎに注意し、安全運転に心がけましょう」と、歩行者の立場からドライバーにメッセージを送りました。

また、その後、関係者らは下山バイパス(富田市内)に移動し、下山小学校の児童や蒲生野中学校の生徒らとともにテープカットなどを実施。多くの地元住民が見守る中、丹波八坂太鼓の演奏を合図に車でパレードを行いました。



沿道に立ってパレードを見守る地元住民

下山バイパス

国道二七号は、歩道や車道幅が狭い区間があるとともに、連続降雨量が百五十ミリを超えると通行止めになる「異常気象時通行規制区間」に指定されており、安全面や防災面で問題がありました。そのため、国の事業として昭和五十年度に下山バイパスの現地調査を開始し、平成三年度から工事を実施。総延長は四キロメートルで、車道幅員三・二五メートルの片側一車線道路。総事業費は約百三十三億円。下山バイパス開通により、道路利用者の安全性確保と、災害時における交通の確保が図られました。

平成23年4月1日開校を目指して「瑞穂地区統合小学校準備委員会」が検討をスタート

瑞穂地区統合小学校準備委員会が7月31日に発足し、平成23年4月1日の統合小学校開校に向けた協議がスタート。よりよい学校を目指して2回の委員会が開催されました。



統合小学校について検討する委員(瑞穂支所・橋爪)

瑞穂地区の小学校の現状と統合小学校の方向性

瑞穂地区の松山小、明俊小、三ノ宮小、質美小は、児童数の減少により、平成二十二年頃から三校で複式学級が予想されるなど、学習環境の課題が生じています。また、松山小の体育館や明俊小・質美小の校舎と体育館が耐震基準を満たしていないなど、施設面でも大きな問題があります。このような現状から、町政懇談会や保護者説明会などを実施し、みなさんからの意見を踏まえて、四小学校の統合を決定しました。

統合小学校は、耐震基準を満たしている現在の松山小学校の校舎を大規模改修するとともに、体育館を新たに建設し、児童数百九十人規模で新たにスタートします。校舎などの施設は、次のことを基本に整備します。

- ① 安全・安心な学校
エレベーターの設置などによるバリアフリー化、児童用トイレの改修。
- ② 多様な教育の展開が図れる学校
校内LANによる情報機器の活用、特別教室などのリニューアル。
- ③ 環境共生・省エネルギー！
快適空間を考慮した学校
太陽光発電システムの設置、木のぬくもりが感じられる仕様、二重窓ガラスの使用。なお、体育館は全面改築により規模を拡大し、社会体育でも利用しやすい設備を計画しています。

よりよい新たな学校を目指して

瑞穂地区統合小学校準備委員会は、小学校の統合に向けた基本的な事項や校舎を含めた施設設備の検討・協議をはじめ、統合小学校の学習環境の向上および円滑な開校を推進するために、十九人の委員で構成。七月三十一日の第一回委員会では、松原茂樹町長が委員に委嘱状を交付した後、委員長に畠中克己さん(下大久保)、副委員長に竹内春雄さん(保井谷)を選出。その後、事務局から統合校の目指す姿や校舎改修計画の概要などの説明を受け、委員からは「バス通学の方法や料金、校名はどうなるのか」「工事期間中の学習をどうするのか」「施設整備だけでなく、教育の中身も考えたい」などの意見が出されました。



統合小学校として大規模改修が計画されている松山小学校(橋爪)

瑞穂地区統合小学校準備委員会委員

氏名	役職名	氏名	役職名
山内幸博	松山小学校長	神谷祥久	三ノ宮地域振興会会長
稲元幹生	明俊小学校長	三好久男	質美地域振興会会長
上西孝浩	松山小PTA会長	坂本美智代	議会議員
畠中克己	明俊小PTA会長	山内武夫	議会議員
山内敏史	三ノ宮小PTA会長	北村和博	一般公募
山口保信	質美小PTA会長	上田 正	副町長
井上暁美	松山保育所保護者会会長	岩崎正子	教育委員長
竹内春雄	瑞穂地区区長会会長	阿部 定	教育委員長職務代理者
中西隆夫	松山地域振興会会長	寺井行雄	教育長
森田一三	梅田地域振興会会長		

(敬称略)

また、十月十七日には第二回委員会を開催し、統合小学校として大規模改修が行われる松山小学校の現地踏査を実施。現地を訪れた委員からは、「周辺の環境整備も含めて検討しなければならない」「運動会などの行事の際の駐車場確保を考える必要がある」「地域の声を大切にして考えていきたい」など、問題点の指摘や提案がされました。

今後は、委員会での協議や検討に加え、児童や地域のみなさんの思いを反映した統合小学校とするために今月から校名募集を行っています。

■「記録認定種目」結果表 [金メダルのみ] (表1)

種目	金メダル(第1位)		大会記録(3回大会まで)		
	氏名(区名)	記録	氏名(区名)	記録	大会
50m走	60-64歳	山口光明(下山) ☆7秒48	奥本英雄(質美)	8秒41	第3回
	65-69歳	奥本英雄(質美) ☆8秒36	藤田博三(森)	8秒92	第2回
	70-74歳	石原哲夫(広瀬) ☆8秒96	石原哲夫(広瀬)	9秒04	第3回
	75-79歳	片山郁夫(角) ☆9秒74	中野賤雄(質志)	10秒44	第3回
80歳以上	吉田 清(富田) ☆9秒79	奥村研三(下山)	12秒15	第2回	
50m走	60-64歳	谷口行代(下山) 11秒56	山崎信子(蒲生)	11秒01	第3回
	65-69歳	山内益代(下山) ☆11秒12	山内益代(下山)	11秒48	第3回
	70-74歳	西保節子(橋爪) 11秒33	西保節子(橋爪)	10秒78	第2回
	75-79歳	畑中重子(富田) ☆14秒68	—	—	—
80歳以上	光永二三子(粟野) ☆18秒01	光永二三子(粟野)	19秒92	第3回	
ソフトボール投げ	男子	山口光明(下山) ☆52m40	東 弘良(下山)	44m85	第2回
	女子	西保節子(橋爪) ☆19m40	谷口行代(下山)	18m80	第3回
輪投げ	山鳥勝美(口八田) ☆30点	畑中勇次郎(富田)	28点	第3回	
ニアピンコンテスト	西山幸伸(猪鼻) ☆19cm	坂本教夫(猪鼻)	54cm	第3回	
ゲートインワン	野々口輝代(下山) 4回	奥本英雄(質美)	41回	第3回	

※「☆」は大会新記録。

ソフトボール
投げ



輪投げ

50メートル
走



9月27日、グリーンランドみずほで開催された「第4回京丹波町シルバーオリンピック」。大会では、「50メートル走」「ソフトボール投げ」「輪投げ」「ニアピンコンテスト」「ゲートインワン」などの競技が行われ、参加者は金メダルを目指して奮闘しました。

高齢者の
スポーツの祭典
シルバー
オリンピック

それぞれの体力に応じて
選択できる出場種目

シルバーオリンピックは、町内の六十歳以上の方の健康増進と親ぼくを深めることを目的に毎年実施。今回は四十七人が参加し、メダルを目指して本格的に競い合う「記録認定種目」をはじめ、ストラックアウトを体験できる「スポーツ体験種目」、基礎体力の状態を計測する「体力測定」など、本格的な種目から気軽に体験できる種目までの多種多様な内容に、秋晴れの

中、参加者はさわやかな汗を流しました。
なお、同大会はスポーツを楽しむことに重点を置いているため、参加者の体力に無理がないよう、それぞれが出場種目を選択する方式で行われました。

次々と塗り替えられる
大会記録

記録認定種目は、五十メートル走、ソフトボール投げ、輪投げ、ニアピンコンテスト、ゲートインワンの五種目で、競技内容に応じて年代別や男女別に分かれて実施。今大会では、高記録が続出し、十五部門中十一部門で大会記録が塗り替えられました。(表1参照)

また、体力測定では、握力、上体起こし、長座体前屈、開眼片足立ち、十メートル障害物歩行、六分間歩行が行われ、参加者らは会話を交わしながら自分自身の健康や体力状態を確かめていました。

すべての競技が終了すると、出場種目の自己記録を記した「認定書」がそれぞれに手渡され、出場選手は自己記録更新に向けて決意を新たにしていました。

最高齢の出場選手

井上 きくゑさん(87歳、大朴)

シルバーオリンピックには昨年からは参加していますが、賞より何よりみなさんと一緒に運動やお話ができることがうれしいです。

大会に参加するのがとても楽しみなので、健康に気を付けて、百歳を目標に来年も元気に参加したいと思います。

50メートル走と
ソフトボール投げの
2種目で大会記録を塗り替えた

山口光明さん(63歳、下山)

今年初めて参加しましたが、久しぶりの運動なので筋肉痛が心配です。

50メートル走とソフトボール投げでは、若いときに軟式野球をしていたのでソフトボール投げの方が得意。できればトレーニングをして今年の記録を塗り替えられたらと思います。



ニアピン
コンテスト



ゲート
インワン



いきいき健康術 第27回



新型インフルエンザに備えて

全国的に感染が拡大している「新型インフルエンザ」。このコーナーでは、新型インフルエンザへの対策など、いざというときに備えた情報をお伝えします。

「新型インフルエンザワクチン」の接種について

新型インフルエンザワクチンは重症化などを防止する有効な手段の一つと考えられていますが、接種しても発症を完全に防げるわけではありませんし、世界的にみても生産量に限りがあります。同ワクチンの活用について、現時点で知っておいていただきたいこと、ご理解いただきたいことをお知らせします。

●優先接種対象者

新型インフルエンザの予防接種は、重症化のリスクが高い方、治療に従事する医療従事者を優先することを基本的な指針とし、次のとおり優先接種の対象者を定めています。

優先接種の対象者

- ①インフルエンザ患者の診療に直接従事する医療従事者(救急隊員を含む)
- ②妊婦および基礎疾患を有する方
- ③1歳～小学3年生に相当する年齢までの小児
- ④1歳未満の小児の保護者、優先接種者対象者のうち身体的な理由で予防接種が受けられない方の保護者など

- (その他の対象者)
- 小学4～6年生、中学生、高校生に相当する年齢の方
 - 高齢者(65歳以上)



●ワクチンの有効性と安全性

同ワクチンには、「国内産」と「輸入」の2種類があります。国内産は、長年接種されてきた季節性ワクチンと同程度の安全性と有効性があると考えられます。輸入ワクチンは、海外で承認されていることを前提とし、さまざまなデータを基に安全性と有効性を確認してから実際の接種が開始されます。

●ワクチン接種の効果とリスク

同ワクチンの接種では、重症化予防の効果とともに、接種部分のはれや発熱などの症状をはじめ、まれに重い病状を引き起こす可能性があります。リスクを100%排除することはできませんので、その点をご理解いただいたうえで、個人の選択で接種してください。

- Q** 季節性インフルエンザワクチンは新型インフルエンザにも効果がありますか。
A それぞれのワクチンは、それぞれのインフルエンザにしか効果がないと考えられます。
- Q** 新型インフルエンザに感染した人でもワクチン接種が必要ですか。
A 一般的に、新型インフルエンザに感染した人は免疫を持っていると考えられるため、予防接種をする必要はないと考えます。ただし、確実に感染したといえるのは、専門の検査(PCR検査など)でウイルスの確認が行なわれた方のみです。

手洗いやうがいで新型インフルエンザの予防を

新型インフルエンザの感染予防には、日ごろからのこまめな手洗いやうがいが効果的です。みなさん引き続きご協力をお願いします。

南丹保健所 新型インフルエンザ相談窓口 [平日 8:30～17:15]
☎0771-62-2979

最新の情報はホームページで
■厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp>
■京都府 <http://www.pref.kyoto.jp/shinflu/>



問い合わせ先
保健福祉課
☎86-1800

「歯が抜けたときの処置について」

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報「コーナー」です。今回の担当は和知歯科診療所の坂下敦宏先生。歯が抜けた状態にしておくことの危険性と適切な処置方法についてのお話です。

抜きっぱなしはダメです

歯を失うのは虫歯や歯周病が主な原因です。もし歯を失ってしまったら、抜きっぱなしにせず、よく噛めるように処置しておくことが大切です。歯が抜けたところを放っておくと、次のようなことが起きます。

口の中に及ぼす影響

- しっかりと噛めなくなりやすくなります。
- 上下の歯が噛み合っていないために、抜けた歯の反対の歯が徐々に伸びてきます。
- 両隣の歯が傾いてきて、歯周病の原因になることがあります。
- あごの骨がやせることがあります。

よく噛めるようにするには

歯が抜けたときは、そのまま放置せずに適切な処置をする必要があります。処置としては、歯のない箇所に歯に代わる物を入れる方法がよく使われます。歯のない箇所に入れる物としては、「取り外しのできる入れ歯」や「固定式のブリッジ」などがありますが、最近では「インプラント(人工歯根)」を希望される方も増えてきています。どの方法を選択しても定期的なメンテナンスが大切です。良好な状態を保つため、かかりつけの歯科医院で定期健診を受けてください。



坂下敦宏先生(和知歯科診療所)

戦没者の冥福を祈って

京丹波町戦没者追悼式

京丹波町戦没者追悼式が十月七日、和知ふれあいセンターで行われ、遺族ら約四百人が参列しました。式典では、戦没者に黙とうをささげた後、松原町長が「悲しみの体験を貴重な教訓として深く胸に刻み、今日に生きるわれわれに課せられた責務として平和への誓いを新たにするとともに、謹んで敬弔の誠をささげます」と式辞を述べました。続いて、京都府知事代理・藤城進南丹広域振興局長や岡本勇町議会議長、京都府遺族会船井支部・清水隆支部長、京丹波町遺族会・前田正代表らが追悼の辞を述べた後、参列者らは菊の花で飾られた祭壇に献花をし、戦没者の冥福を祈りました。



追悼式で献花をする松原町長(和知ふれあいセンター・本庄)

町民のみなさんの健康を守るために

「京丹波町介護療養型老人保健施設 開所式」

和知診療所の病床転換により新たに開設した「京丹波町介護療養型老人保健施設」の開所式が十月一日、同診療所前で行われ、職員ら約四十人が出席しました。開所式では、松原町長が「和知診療所の方向性をさまざまな観点から考えた結果、病床転換による同施設の開設を行いました。地域で自立した生活が送れるようにサポート

交通事故のないまちを実現するために

南丹船井交通安全大会

第四回南丹船井交通安全大会(南丹船井交通安全協会・京都府南丹警察署主催)が九月二十六日、道の駅「和」道路情報センターで行われ、町内外から約百五十人が参加しました。

同大会は、交通事故のない「明るいまち」「平和なまち」を実現するため、南丹市と京丹波町の地域住民総ぐるみの活動として毎年実施。館内で行われた記念式典では、交通安全功労者表彰の伝達式が行われた後、わちエンジェルきりん組の園児

するとともに、地域のみなさんの期待に応えられる施設となるように努めていきたい」と参加した職員に訓示。また、中村所長は「入所された方に必要な医療や看護、介護、リハビリテーションなどを提供し、安心して自宅に戻っていただけるように支援していきます」とあいさつしました。同施設は、病床数十九床で、和知診療所二階に開設。介護保険制度に基づく「入所」「短期入所療養介護」「介護予防短期入所療養介護」などのサービスを提供します。(詳細は四十六号に掲載)



和知診療所前で行われた開所式(和知診療所・本庄)

約二十人が「道路は右側を歩き、横断するときは左右を見てからわたります。道路では遊ばず、飛び出しません。みんなで交通ルールを守りましょう」と交通安全宣言をしました。午後からは伝統芸能の定期公演があり、和知人形浄瑠璃保存会による「ATM振り込め詐欺 還付金詐欺師の段」などの上演をはじめ、大正琴や吹奏楽、詩吟と舞が披露されました。また、ふれあい広場では、白バイやパトカーへの乗車体験、フワフワ宇宙城、ふるまい餅など、たくさん催しが行われ、多くの人でにぎわいました。



交通安全宣言をするわちエンジェルの園児(道の駅「和」道路情報センター・坂原)

竹野小学校のホームページがJ・KIDS大賞二〇〇九

竹野小学校のホームページが「J・KIDS大賞二〇〇九」(同実行委員会主催)の都道府県等代表校に二年連続で選ばれ、九月三十日に同校で表彰状の贈呈式が行われました。

同大賞は、インターネット上で公開されている小学校のホームページを対象に、わかりやすさや更新頻度、学校情報の公開状況などを基準として、社会人ボランティア約千人で審査を実施。今回は一万八千九百五十一校の中から、都道府県等代表校五十二校(都道府県一位および特別推薦)と都道府県最優秀校約四百校(都道府県二十一位など)を選考され、同校が京都府内

四百七十七校の代表に選ばれました。

贈呈式では、同実行委員会事務局から表彰状の贈呈が行われた後、野口耕平校長が「これからも『若竹つ子』として元気にがんばっている姿をブログで伝えていきたいと思います」とあいさつを述べました。

同校では、日ごろの学校の様子を紹介する「わかたけブログ」や毎日の献立を紹介する「ランチブログ」をはじめ、今年四月からは児童たちが学校紹介を行う「わかたけこどもブログ」を開設。ブログの更新に携わる児童会委員長の東達朗さんは、「音楽会などの行事に向けた練習や学校生活でうれしかったことなど、日記を書く



竹野小のホームページを見つめる児童(竹野小学校・高岡)

ような感じで取り組んでいます。運動が好きで練習をがんばっているの、今後はそのこともブログで書いていきたい」と話しました。

練習り広げられる熱戦

スポーツ少年団軟式野球大会

第四回京丹波町体育協会会長杯争奪「スポーツ少年団軟式野球大会」(町スポーツ少年団主催)が十月三日、わちグラウンドで行われ、五チーム(約八十人)が参加しました。

同大会は、スポーツ少年団活動の活性化を促進し、軟式野球の普及を図るとともに、団員相互の交流を深めることを目的に毎年実施。試合では、日ごろの練習成果を生かした白熱した攻防が繰り広げられ、見守る観客からは熱い声援が送られていました。

- ▼優勝 和知少年野球クラブ
- ▼準優勝 須知ビクトリーズ
- ▼三位 ゴンターズ高原

百歳の記念を祝して

敬老祝賀訪問

十月十六日、百歳の長寿をお祝いする「敬老祝賀訪問」が行われました。この事業は、本年度に百歳を迎える町民をお祝いするために、松原町長と京都府南丹保健所・中川剛次長がそれぞれの自宅などを訪問して祝品などを贈呈するもので、本町では五名の方が対象となりました。



松原町長から祝品を受けとる岡本さん



力いっぱいバットを振り抜く選手(わちグラウンド・安栖里)

交通安全の意識を高めるために 交通安全啓発ポスター コンクール表彰式

町内の小中学生を対象とした「交通安全啓発ポスターコンクール」(南丹船井交通安全協会京丹波支部主催)の表彰式が十月十七日、和知ふれあいセンターで開催され、受賞者ら約五十人が出席しました。
表彰式では、同支部長の上田次雄さんが「交通事故をなくすためにも、このコンクールを契機として交通安全意識を高めてもらいたい」とあいさつした後、受賞者に表彰状と記念品の贈呈が行われました。
同コンクールは、交通安全意識を高め、交通事故防止を図ることを

目的に、町内の小中学生を対象に毎年実施。十月五日に行われた審査会では、蒲生野中学校美術教師ら六人の審査員が審査を実施し、応募総数二百二十九点の中から、特選三点、優秀賞七点、佳作十五点を選びました。
入賞者は次のみなさん。
(特選のみ、敬称略)
京丹波町長賞
野村紗代(瑞穂中・二年)
南丹警察署長賞
山本麻未(蒲生野中・一年)
南丹船井交通安全協会会長賞
西垣真奈(三ノ宮小・二年)



コンクールで入賞されたみなさん(和知ふれあいセンター・本庄)

地域特産「丹波くり」 の振興を目指して 京丹波くりまつり

「平成二十一年京丹波くりまつり」(同実行委員会主催)が十月三日、丹波マーケスふれあい広場で開催されました。
本町では、大粒で甘みがあり、香りもよいことで知られている「丹波くり」を地域特産物とし、生産量拡大に向けた取り組みなどを展開。今回のイベントでは、丹波くりのPRや、生産者と消費者、加工業者など

の交流を深めることを目的に、地元で収穫した丹波くりの即売会をはじめ、焼きぐり、くりご飯、くりを使ってお菓子・加工品の販売などが行われ、訪れたみなさんは丹波くりを使った料理で秋の味覚を味わいながら、多彩な催しに参加して楽しいひとときを過ごしました。
また、同会場では、「平成二十一年度京丹波丹波くり品評会」(京都府特用林産振興連絡会主催)の表彰式や展示即売会なども開催されました。



丹波くりを買い求める参加者(丹波マーケスふれあい広場・須知)

スポーツを通じて 深まる交流 京丹波町民スポーツフェスティバル

「第二回京丹波町民スポーツフェスティバル」(町体育協会主催)が十月四日、グリーンランドみずほの多目的グラウンドで行われ、各集落などで構成された八チームが参加しました。

同大会は、スポーツを通じて町民の健康増進や体力向上を図るとともに、地域の連携と幅広い交流を深めることを目的に実施。今回は、これまでから実施している「京都ギネスに挑戦」のリレーボール、大縄跳び、玉入れに加え、新種目のバケツリレー、四人五脚などが行われ、参加者らはチームワークを生かして次々と得点を重ねていきました。
また、隣接するホッケー場では、

オープン参加の部として「ミニサッカー大会」が行われ、町内のスポーツ少年団などが力強いプレーで汗を流していました。
主な結果は次のとおり。

- 総合優勝 竹野口
- 総合二位 豊田
- 総合三位 口八田



新種目「バケツリレー」で力走する参加者(グリーンランドみずほ・大朴)

バレーボールで 深まる交流 和知地区親善バレーボール大会

平成二十一年度和知地区親善バレーボール大会(同実行委員会主催)が十月二十五日、わちグラウンドで行われ、各集落などで構成された二十五チーム(約三百五十人)が参加しました。

この大会は、バレーボールを通じて、住民の親善・親睦を深め、地域力の向上を図ることを目的に毎年実施。試合は、グラウンドに設置された六コートに分かれて行われ、リーグ戦で順位を競いました。
開会式では、同大会会長の吉田昭さん(本庄)が「グラウンドで男女混合のバレーボールをする珍しい取り組みなので、今後も地域の親睦を深めるために続けていきたい」とあい



多くの人が見守る中でバレーボールを楽しむ参加者(わちグラウンド・安栖里)

山野草と 親しむ機会を 秋の森祭り

「秋の森祭り」が十月三日・四日の二日間、わち山野草の森で行われ、多くの来園者にぎわいました。
祭りでは、秋の植物を使った「秋の山野草展」をはじめ、山野草の寄せ植えや苔玉教室、その場で揚げた旬の山菜などが味わえる「美味しいものコーナー」、花苗の販売など多彩な催しが行われ、訪れたみなさんを楽しませていました。
同園では毎年、季節ごとに彩りを変える山野草の美しさを体験してもらうために、「山野草の森祭り」を五月・六月・八月・十月・十二月の計五回実施。次回は十二月十二日・十三日の二日間、松竹梅寄せ植えやミニ門松教室、葉牡丹販売などを予定されています。



秋の山野草展を楽しむ来園者(わち山野草の森・坂原)

手刈りの 収穫作業を体験 「あっぱれたんぼ」稲刈りイベント

「あっぱれたんぼ」稲刈りイベントが十月十日、丹波自然運動公園総合グラウンド下の田んぼで行われ、地元曾根区の住民ら約百人が参加しました。

このイベントは、現代米(日本晴れ)と古代米(赤米、黒米など)を使っ

てカエルと太陽を描いた「あっぱれたんぼ」の稲刈りを行うもので、参加者らは、たわわに実った稲穂を次々と手刈りで収穫し、品種ごとに仕分けして稲木に干していきました。
また、収穫後には、古代米と現代米を使ったおにぎりなどが振る舞われ、参加者らは秋の味覚を満喫していました。

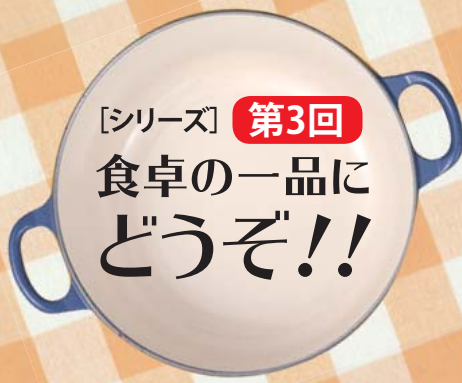


手刈りで収穫作業を行う参加者(曾根地内)

わたしたちの町

人口	16,996(-19)
男	8,042(-17)
女	8,954(-2)
世帯数	6,499(-21)
11月1日現在()は前月比	

職員の配置
■退職(十月三十一日付)
梅原陽介 参与(常勤特別職)
中村匠(企画情報課情報推進室主事) (敬称略)



[シリーズ] **第3回**
食卓の一品に
どうぞ!!

地元で採れる旬の食材を使った料理レシピ

豊かな自然に恵まれた京丹波町では、みず菜やホウレンソウ、伏見とうがらしなど、たくさんの野菜が栽培されています。地域で採れた野菜を地域で消費する「地産地消」の取り組みは、安心・安全な食生活を支える大切なものであるとともに、食を通じて地域の良さを再認識することができます。

このコーナーでは、地産地消の取り組みを推進する食生活改善推進員協議会のみなさんに、地元で採れる旬の食材を使った料理の作り方を紹介していただきます。

今回の料理

「ミルク煮込み」 ロール白菜

【材料(2人分)】

- ◆白菜……4枚(400g)
- ◆ベーコン…4枚(70g)
- ◆枝豆………少々
- ◆にんじん ……少々
- (グリーンピースでもよい)

<調味料>

- ◇水 ……………150cc
- ◇片栗粉 ……小さじ2
- ◇塩、コショウ……少々
- ◇牛乳 ……………150cc
- ◇コンソメ…キューブ1個
- (顆粒の場合、小さじ2)

1日に必要な野菜の量は300~350g。このメニューでは210gの野菜が取れます。



■作り方

- ①白菜は茎の厚い部分と葉の部分に切り分け、茎の部分は適度な大きさに刻み、葉の部分は熱湯でゆでてしんなりさせる。
- ②にんじんは飾り切りにし、枝豆(グリーンピース)と一緒にゆでる。
- ③ベーコンを半分に切り、白菜の葉の上に並べて巻き込み、形が崩れないようにつまようじで留める。
- ④水とコンソメ、刻んだ白菜(茎の部分)を鍋に入れて、白菜がしんなりするまで煮る。
- ⑤③を加えて2~3分煮てから、牛乳と片栗粉をよく混ぜ合わせて入れる。焦がさないように注意しながら、とろみがついたら火を止め、塩・コショウで味を整える。
- ⑥にんじんと枝豆(グリーンピース)を添えて盛り付ける。

■栄養価(1人分)

エネルギー	たんぱく質	脂質	カルシウム	食物繊維	塩分
247kcal	9.3g	16.8g	173mg	2.7g	2.0g

編集後記

多くの地域のみなさんが沿道に立つて完成を祝った「国道27号下山バイパス」。編集集も通勤などで国道27号を利用してきましたが、狭小区間での大型車とのすれ違いなどで何度か怖い経験をしたことがあります。下山バイパスの完成によって、道路利用者の安全性確保が図られるとともに、地域の活性化につながることを期待しています。▼1か月間の出来事を思い出しながら編集後記を書いていると、仕事以外のほとんどを息子と過ごしていることに改めて気付きました。父親として息子と関わる中で感じること、思うことなど、そのようなことを含めた「子育て」の特集ができればと思います。(K)

〈次回は、二月号に掲載する予定です〉

これから寒い季節を迎えますが、冬の野菜は体を温める役目をします。いっぱい食べて寒い冬ののりきりしましょう。

季節の野菜と普段の食事で摂りにくい牛乳を組み合わせた料理で、白菜やベーコンから出るうま味を、やさしい味わいの牛乳で包み込んでいます。短時間で調理でき、ベーコンの代わりにウインナーなどを使ってもおいしくいただけますので、ぜひご家庭で味わってみてください。



食生活改善推進員協議会
会計 尾池とし子さん
(小畑)

一言アドバイス